

低酸素細胞へ集積することが知られている。当施設で行った婦人科がんに対する⁶²Cu-ATSM-PETの初期経験について報告する。【方法】2007年4月～2008年12月までに当院で放射線治療を行った婦人科がん症例のうち、試験に登録することを同意した症例に治療前後に¹¹C-Methionin-PETと⁶²Cu-ATSM-PETを行い、分析した。【結果】現時点での登録症例は17例。年齢の中央値は64歳(39-74歳)。子宮頸部扁平上皮癌：子宮頸部腺癌：悪性黒色腫=9:7:1例。治療方法はphoton:carbon ion=3:14例。全例で、MRIで確認した腫瘍に⁶²Cu-ATSMの集積を認めた。【まとめ】いずれもアミノ酸代謝のPETとは異なる画像が得られた。腫瘍内低酸素領域の評価法として今後さらに検討していく必要があると考えられた。

13. 腔内照射に組織内照射を併用した image guided brachytherapy の初期経験

若月 優, 大野 達也, 吉田 大作
鈴木 義行, 中野 隆史

(群馬大院・医・腫瘍放射線学)

【目的】子宮頸がんに対する腔内照射では、腫瘍の大きさや偏在によっては十分な線量を投与できない場合がある。我々は、定型的な腔内照射に組織内照射を加えることにより線量分布の改善ができた症例を経験したので報告する。【症例】症例は53歳女性。子宮頸癌IIIb期(FIGO分類), 扁平上皮癌。タンデムとオポイド挿入後needle刺入を追加した状態でCT撮影をおこなった。線量分布の解析は腫瘍体積(GTV)のD90, 膀胱と直腸のD2ccを評価した。【結果】腔内照射のみの場合, D90, 膀胱と直腸のD2ccはそれぞれ3.1Gy, 5.9Gy, 4.4Gyであったが, 組織内照射を併用することによりそれぞれ6.4Gy, 6.0Gy, 5.3Gyとなった。【結語】組織内照射の併用により, 腫瘍に対する線量分布は良好となった。

14. 当院における前立腺癌の放射線治療成績

白井 克幸, 村田 和俊, 北本 佳住
樋口 啓子, 玉木 義雄

(群馬県立がんセンター 放射線科)

【目的】1回3Gy, 週3回, 総線量69Gyを用いて治療

した前立腺癌の長期治療成績と有害事象について解析する。【対象】1997年から2007年までの64例で, 前立腺癌新鮮例は41例, ホルモン療法不応例は23例であった。治療成績はKaplan-Meierで解析した。【結果】全症例の5年PSA非再発率と5年原病生存率は69%, 87%であった。新鮮例とホルモン療法不応例での比較では, 5年PSA非再発率はそれぞれ87%, 34%であり, 5年原病生存率はそれぞれ90%, 81%であった。Grade2以上の急性期有害事象の粗発生率は尿路障害28%, 腸管障害5%で, 晩期有害事象の粗発生率は尿路障害8%, 腸管障害は28%であった。【結論】新鮮例の治療成績はホルモン療法不応例に比べ良好であった。晩期腸管障害は過去の報告とほぼ同等であった。

15. III期非小細胞肺癌に対するCDDP/TS-1併用療法の同時化学放射線療法の第I相試験

江原 威, 河村 英将, 吉田 大作
高橋 健夫, 中野 隆史

(群馬大院・医・腫瘍放射線学)

【目的】III期非小細胞肺癌に対するCDDP/TS-1併用療法に放射線治療同時併用時のTS-1の最大耐用量(MTD), 推奨用量(RD)を決定する。【方法】放射線治療開始日をday1とし, 同日からCDDP/TS-1を同時併用する。CDDP(40mg/m²)はday1, 8に投与し, TS-1はday1から2週投薬・1週休薬とし, これを1コースとして, 2コースを同時併用する。TS-1は50mg/m²から10mg毎に増量する。放射線治療は1回2Gyの週5回法で60Gy(予防領域は40Gy)とし, 正常肺のV20を30%以下とする。【結果】これまでに10例が登録された。TS-1が60mg/m²で2/3の症例に血液/骨髄系の投与制限毒性(DLT)が認められ, 50mg/m²でのDLTは2/7であった。従って50mg/m²がRD, 60mg/m²がMTDと考えられた。重篤な非血液毒性は認められなかった。【結論】本プロトコールではTS-1は50mg/m²がRDと考えられた。